



平成27年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年9月8日

上場会社名 株式会社きんえい 上場取引所 東
 コード番号 9636 URL http://www.kin-ei.co.jp
 代表者 (役職名)取締役社長 (氏名)丸山 隆司
 問合せ先責任者 (役職名)取締役経理部長 (氏名)好井 裕一 (TEL) (06) 6632-4553
 四半期報告書提出予定日 平成26年9月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年1月期第2四半期の業績(平成26年2月1日～平成26年7月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年1月期第2四半期	1,669	6.1	88	74.9	102	133.3	51	118.5
26年1月期第2四半期	1,573	4.2	50	—	43	—	23	—

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
27年1月期第2四半期	18	63	—	—
26年1月期第2四半期	8	52	—	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年1月期第2四半期	4,880	—	1,671	—	—	34.2
26年1月期	5,169	—	1,647	—	—	31.9

(参考) 自己資本 27年1月期第2四半期 1,671百万円 26年1月期 1,647百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円	銭	円	銭	円
26年1月期	—	0 00	—	10 00	10 00
27年1月期	—	0 00	—	—	—
27年1月期(予想)	—	—	—	10 00	10 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年1月期の業績予想(平成26年2月1日～平成27年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	3,200	△0.5	120	8.4	130	32.1	60	14.0	21	50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
 (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年1月期2Q	2,821,000株	26年1月期	2,821,000株
② 期末自己株式数	27年1月期2Q	30,904株	26年1月期	30,848株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年1月期2Q	2,790,133株	26年1月期2Q	2,790,575株

当社は、平成25年6月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。発行済株式数（普通株式）は、前事業年度の期首に当該株式併合が行われたものと仮定して算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「(3) 業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、円安・株高が継続する中、企業収益の持ち直しに伴って雇用情勢、所得環境の改善が進み、消費税率引き上げ前後で駆け込み需要とその反動がみられたものの、個人消費が堅調に推移するなど、引き続き回復基調となりました。

この間当社におきましては、事業全般に亘って顧客視点に立ったサービスの提供に努めるとともに、部門別業績管理の徹底化を精力的に推進し、集客と収入の確保に努めました。

各セグメントの状況は次のとおりであります。

シネマ・アミューズメント事業部門におきましては、劇場事業では全国興行収入歴代3位となった“アナと雪の女王”をはじめ、“名探偵コナン”“テルマエ・ロマエⅡ”“マレフィセント”“永遠の0”“アメイジング・スパイダーマン2”“ドラえもん”“土竜の唄 潜入捜査官REIJI”“相棒—劇場版Ⅲ—”“抱きしめたい—真実の物語—”などの話題作品を上映して観客誘致に努めました。本年3月7日に「あべのハルカス」が全面開業したことにより、阿倍野地区が全国的に脚光を浴びる中、近鉄グループ各社と連携した積極的な広告宣伝活動や販売促進活動を展開するとともに、本年6月には「スクリーン1」の座席交換工事を施工し、また7月には全スクリーンにおいて、足元段差部分にLEDによる照明器具を設置するなど、劇場内の快適性と安全性の向上に努めましたので、劇場事業では前年同期を大きく上回る成績となりました。一方、遊戯場事業におきましては、劇場事業と一体となった集客を継続して推進いたしました結果、この部門全体の収入合計は、前年同期に比較して22.2%増の799,237千円となり、営業原価控除後では20,026千円のセグメント利益（前年同期は23,759千円のセグメント損失）となりました。

不動産事業におきましては、アポロビルにおいて、「あべのハルカス」全面開業に機を合わせて地下2階、1階のエレベーター周辺及び1階共用通路等の美装工事を実施し、照明設備についても照度向上等の改良を行ったのに加え、地下2階から2階までのエスカレーター4基の更新工事を実施するなど、より快適で安全なビルづくりを推進いたしました。ルシアスビル1階のルシアスステージを活用した各種イベントを活発に実施したほか、アポロ、ルシアス両ビルへのイルミネーションの設置を進めるなど、集客と賑わいの創出に努めました。また、賃貸収入の確保に向けて、ビル入居率の維持・向上を図るため、空室部分への後継テナント誘致に注力いたしましたが、ルシアスビル事務所フロアにおいて大型テナントの退去があったことなどから、駐車場収入等ビル付帯事業並びにその他の事業を含めたこのセグメント全体の収入合計は、前年同期に比較して5.4%減の870,255千円となり、営業原価控除後では215,127千円のセグメント利益となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高合計は前年同期に比較して6.1%増の1,669,492千円となり、費用の面におきましても、諸経費全般に亘って鋭意削減に努めました結果、営業利益は88,246千円（前年同期比74.9%増）となり、経常利益は102,418千円（前年同期比133.3%増）、四半期純利益は51,972千円（前年同期比118.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の分析

当第2四半期会計期間末における総資産は、短期貸付金の減少等により前期末に比較して288,979千円減少し、4,880,768千円となりました。

負債は借入金の返済等により、前期末に比較して312,725千円減少し、3,209,443千円となりました。

また、純資産は、四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したため、前期末に比較して23,746千円増加し、1,671,325千円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は財務活動による支出が営業活動による収入及び投資活動による収入を上回ったため、前事業年度末に比較して3,253千円減少（△4.2%）し、74,898千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動で得られた資金は、117,965千円で前年同期と比較して208,505千円減少しました。これは、税引前四半期純利益の増加を、法人税等の支払額やその他の流動負債の減少額の増加が上回ったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動で得られた資金は、短期貸付金の減少により、107,291千円となりました。前年同期は短期貸付金の増加であったため、222,544千円収入額が増加しております。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動で使用した資金は、長期借入金の返済額が短期借入金の増加額を上回ったため228,511千円となりました。前年同期と比較しましても、借入金の返済額が借入額を上回ったため、23,887千円支出額が増加しております。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後につきましては、シネマ・アミューズメント事業部門では、阿倍野地区来街者に向けたさらなる情報発信に努めるとともに、継続的に顧客サービスの充実を図ることで、当社顧客の拡大に力を注いでまいります。「アポロシネマメンバーズ」については会員数20万人達成に向けて新規会員の募集活動を推進するとともに、様々な機会と手法による情報提供により既存会員への働きかけを行い、観客動員と興行収入の一層の拡大に努めてまいります。

また、不動産事業部門におきましては、引き続き安全・快適なビル環境整備に努めるとともに、ビル空室区画へのテナント誘致活動に全力を挙げて取り組み、収益の確保に努めてまいります。さらには、劇場、不動産両部門の有機的な連携の強化を図り、「あべのハルカス」や「あべのキューズモール」とも協同した広告宣伝活動、販売促進活動をなお一層推進するなど、安定的な経営基盤の確立に全力を傾注してまいります。

通期の予想につきましては、売上高は3,200百万円（前期比0.5%減）、営業利益は120百万円（前期比8.4%増）、経常利益は130百万円（前期比32.1%増）、当期純利益は60百万円（14.0%増）となる見込みであります。なお、平成26年3月11日に「平成26年1月期決算短信（非連結）」にて公表した業績予想から修正しており、詳細につきましては、本日付で別途開示しております「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年1月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	78,152	74,898
売掛金	92,364	79,752
商品	3,458	4,074
その他	514,209	221,675
貸倒引当金	△150	-
流動資産合計	688,035	380,400
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,262,825	2,237,609
機械及び装置(純額)	66,969	67,092
工具、器具及び備品(純額)	71,171	75,813
土地	1,123,748	1,123,748
有形固定資産合計	3,524,714	3,504,264
無形固定資産	61,592	55,854
投資その他の資産		
差入保証金	859,555	892,132
その他	35,849	48,117
投資その他の資産合計	895,405	940,249
固定資産合計	4,481,712	4,500,368
資産合計	5,169,748	4,880,768
負債の部		
流動負債		
買掛金	100,983	102,600
短期借入金	-	150,000
1年内返済予定の長期借入金	378,920	406,920
未払法人税等	66,254	49,781
賞与引当金	10,100	11,600
その他	465,867	409,591
流動負債合計	1,022,125	1,130,492
固定負債		
長期借入金	388,500	10,040
退職給付引当金	71,206	73,931
受入保証金	1,653,736	1,618,801
資産除去債務	275,713	277,804
その他	110,887	98,374
固定負債合計	2,500,043	2,078,950
負債合計	3,522,168	3,209,443

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年1月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	564,200	564,200
資本剰余金	24,155	24,155
利益剰余金	1,162,750	1,186,821
自己株式	△105,908	△106,058
株主資本合計	1,645,197	1,669,118
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,381	2,206
評価・換算差額等合計	2,381	2,206
純資産合計	1,647,579	1,671,325
負債純資産合計	5,169,748	4,880,768

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年2月1日 至平成26年7月31日)
売上高	1,573,608	1,669,492
営業原価	1,368,493	1,434,337
営業総利益	205,114	235,154
一般管理費	154,650	146,908
営業利益	50,464	88,246
営業外収益		
受取利息	771	1,283
受取配当金	91	121
受取和解金	-	15,287
違約金収入	900	2,649
雑収入	991	1,289
営業外収益合計	2,753	20,631
営業外費用		
支払利息	8,573	6,450
雑支出	743	9
営業外費用合計	9,317	6,459
経常利益	43,900	102,418
特別損失		
固定資産除却損	2,364	17,479
特別損失合計	2,364	17,479
税引前四半期純利益	41,536	84,938
法人税、住民税及び事業税	34,900	48,000
法人税等調整額	△17,150	△15,034
法人税等合計	17,749	32,965
四半期純利益	23,787	51,972

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年2月1日 至平成26年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	41,536	84,938
減価償却費	175,147	177,020
退職給付引当金の増減額(△は減少)	2,379	2,724
受取利息及び受取配当金	△862	△1,405
支払利息	8,573	6,450
固定資産除却損	2,364	17,479
売上債権の増減額(△は増加)	3,184	12,612
その他の流動資産の増減額(△は増加)	23,808	△39,605
仕入債務の増減額(△は減少)	20,516	1,616
その他の流動負債の増減額(△は減少)	57,366	△65,000
その他	3,936	△10,599
小計	337,952	186,231
利息及び配当金の受取額	940	1,592
利息の支払額	△7,610	△6,271
法人税等の支払額	△4,812	△63,587
営業活動によるキャッシュ・フロー	326,471	117,965
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△36,084	△135,023
無形固定資産の取得による支出	△475	△10,180
短期貸付金の増減額(△は増加)	△116,237	340,283
差入保証金の回収による収入	25,384	△32,577
受入保証金の増減額(△は減少)	13,449	△43,680
その他	△1,290	△11,530
投資活動によるキャッシュ・フロー	△115,252	107,291
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	-	150,000
長期借入れによる収入	100,000	-
長期借入金の返済による支出	△275,460	△350,460
配当金の支払額	△27,908	△27,901
その他	△1,255	△149
財務活動によるキャッシュ・フロー	△204,623	△228,511
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	6,594	△3,253
現金及び現金同等物の期首残高	68,063	78,152
現金及び現金同等物の四半期末残高	74,658	74,898

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(平成25年2月1日から平成25年7月31日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	654,005	919,602	1,573,608	—	1,573,608
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	654,005	919,602	1,573,608	—	1,573,608
セグメント利益又は損失(△)	△23,759	228,873	205,114	△154,650	50,464

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期累計期間(平成26年2月1日から平成26年7月31日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	799,237	870,255	1,669,492	—	1,669,492
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	799,237	870,255	1,669,492	—	1,669,492
セグメント利益又は損失(△)	20,026	215,127	235,154	△146,908	88,246

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。